



海軍と日本

池田 清 著

中公新書

戦艦最強神話崩壊

プリンスオブ・ウェールズの最期

英海軍 世界最新鋭の戦艦 沈没



結果：日本勝利

→ 大艦巨砲時代終息を告げる。

= 航空機主体到来

艦隊決戦の光と影

- 19世紀後半 世界 帆走→汽走軍 変化
- 連合艦隊 勝因
1. 快速 単縦陣 戦法
簡単 独創的な戦法
 2. 速射砲 威力
中口砲の増設
- 事前戦備・政戦両略優位が勝因

大和 登場



特徴：大艦巨砲主義（海軍技術総結集）

48センチ 主砲

全長 263メートル

問題点： 対空防衛 対応・認識不十分



戦略の不統一

米軍 フィリピン進行 死守

→輸送船団を派遣（栗田艦隊）

栗田艦隊 反転？

遠因：マニラ会議 情報統一の不徹底

任務認識 欠く



見切りの速さ

1. 栗田艦隊 攻撃不徹底
 2. ハワイ奇襲攻撃 不徹底
 3. 珊瑚海海戦 追撃の不徹底
艦船大打撃 戦略施設無傷
- ⇒ 戦況悪化に拍車をかけた

太平洋戦争へ

日独伊三国同盟 至急締結

日本：米英二力国相手不可能

原因

→陸軍の独走状態

海軍 非力

悲劇 ロンドン会議

ロンドン会議 意図：各国軍縮



国際平和

結果的⇒各国軍備 精鋭化へ

日米両海軍 敵対意識拍車



日本 ドイツ技術援助

日英同盟 破棄

英国 技術援助不可能に

ドイツ

最先端造船技術 保持

⇒日独同盟締結へ

海軍 Vs 陸軍

海軍 < 陸軍

海軍比較：国民 關係密

陸軍 政治的權力 大

⇒ 国家予算 増大可能 (陸軍へ)

補足：終身雇用制度 確立 (志願兵限定)

親英⇒反英へ

太平洋戦争 英国をアジア追放



支那事変 英国 日本に敵意・・・
侵略・惨虐の過去 日本責任に
英国 偽善的態度
⇒英国 決別へ・・・



まとめ

海軍の政治的権力 影響力無さ

陸軍の暴走 停止不可